

丹沢ボラネット瓦版

2026年 10 月号 No.126



丹沢の深まる秋 2025 年 11 月 2 日 丹沢表尾根線三ノ塔付近で撮影



2025 年 12 月 6 日 大野山山頂付近で行われた神奈川県警察松田警察署山岳救助隊による救助デモンストレーションのもよう

丹沢大山ボランティアネットワーク加盟団体からの投稿

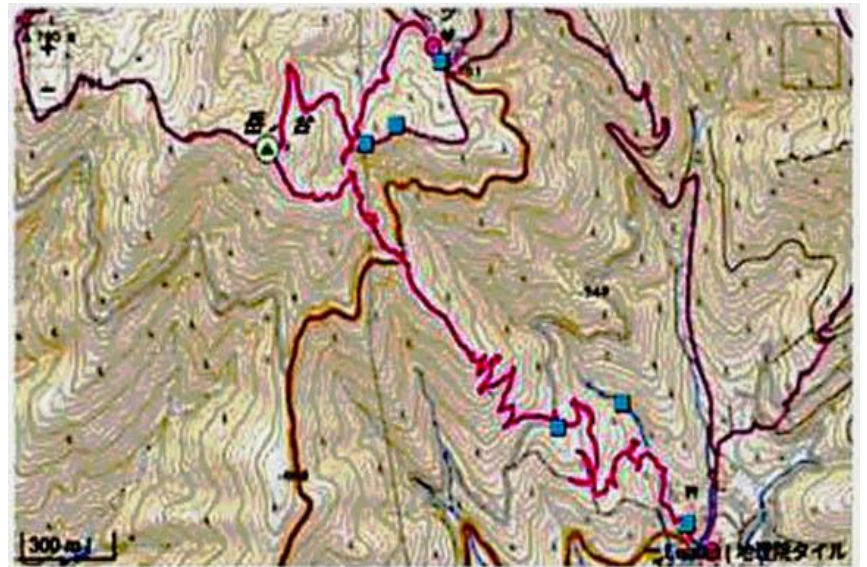
「先人が歩いた旧ヤビツ道・旧ヤビツ峠探訪記」 その2

丹沢環境推進会議 議長 ナチュラル丹沢

瓦版125号「先人が歩いた旧ヤビツ道・旧ヤビツ峠探訪記」その1の続きその2です。

地図の見方

- ・赤線—探訪コース(登山経路)
- ・茶線—県道70号線
- ・東にある鳥居付近の■—蓑毛
- ・北にある■—現ヤビツ峠
- ・西にある■—旧ヤビツ峠
- ・紫線—登山道(柏木林道)
- ・青の線—川(沢)
- ・探訪路の東側の川—棚ヶ入沢
この沢の最頂部が旧ヤビツ峠



↑探訪経路地図 丹沢自然学校・奥津氏ヤマレコより

その2のコース

県道70号線～新多摩線 NO8 鉄塔～棚ヶ入沢頂上崩壊部付近～岳ノ台
～旧ヤビツ峠(新多摩線 NO9 鉄塔)～県道70号線～現在のヤビツ峠

右写真の新多摩線 NO8 鉄塔を目指して、
再びヤビツ旧道を探し登り始めました。
旧道は分かりやすく、すぐに見つけられました。

→写真 新多摩線 NO8 鉄塔
高いところに見える



何かの作業のため手摺等と登りやすいように
になっていました。

→写真 新多摩線 NO8 鉄塔を目指し
県道 70 号線からアタック開始



NO8 鉄塔までの道のりは急勾配続き、強風のためか中低木が多く、またススキ等草本が多く見られました。ただはっきりしない旧道のような跡が少し分かりました。

NO8 鉄塔は写真のように大部分がススキで覆われていました。ここまでは比較的危険がなく予定通り、困難がなく到達しました。

→写真 新多摩線 NO8 鉄塔



休憩が終わり、NO9 鉄塔（旧ヤビツ峠）へと向かいます。右写真から分かるように NO9 鉄塔の前が崩れています。崩壊したところは棚ヶ入沢頂上付近にあたり、沢の北斜面です。現在探訪隊は、沢の南斜面にいます。

→写真 新多摩線 NO9 鉄塔（旧ヤビツ峠付近）
手前が棚ヶ入沢頂上付近で沢を直登すると、旧ヤビツ峠にたどり着く



鉄塔をそのまま尾根沿いに登ると岳の台へ行きます。旧ヤビツ道を探すため NO8 鉄塔を一旦少し下り、沢の方向へ行くと平坦な旧ヤビツ道らしい道を見つけました。

→写真 探した平坦な旧ヤビツ道
ゆっくり歩いた旅人が想像できる



平坦な道は長く続かず、すぐに雪の残る沢越えの危険な崩壊道へ続き、旧ヤビツ峠まで50m地点で残念だが、沢越え（旧ヤビツ道）を断念しました。

引き返し、岳ノ台登頂コースの大巻き道を選び旧ヤビツ峠へ行きました。

崩壊した沢越えをするためには、ロープ等登山用具と優れた登山技術が必要です。

→写真 ザレ場のある、大崩壊がある旧ヤビツ道跡



→写真 旧ヤビツ峠 平らな部分が峠の馬の背中の部分の一部である

行き先案内板は表尾根稜線の岳ノ台方向（右）と現ヤビツ峠（左）を示しています。

奥左側が棚ヶ入沢頂上付近で難所の大崩壊地へ続いています。



旧ヤビツ峠付近は現ヤビツ峠のように広くない
が峠の鞍部付近は少しの湿地も見られます。

雨天の時、この峠は分水嶺となり北側は最後
に相模川へ、南側は金目川へ流れて行きます。

→写真 旧ヤビツ峠の鞍部の北側付近
NO9 鉄塔の西側の下方にあたる



旧ヤビツ峠～県道 70 号線への旧道は平坦で
比較的歩きやすい下り坂です。表尾根の北斜面
なので、雪や雨などが冬季には残雪になりアイス
バーンになっている事もあります。アイゼン等の
雪への備えも大切です。

→写真 旧ヤビツ峠北側
残雪のあるヤビツ旧道



旧ヤビツ道は下りで緩やかに曲がりながら、
ますます平坦になり県道 70 号線へ近づきます。
前方には新多摩線 NO10 鉄塔が見え、明るく
風景が開けてきました。

→写真 旧ヤビツ道
左側はススキがおおい茂り平坦な沢
右側は急勾配の山沿いで落葉樹の
山林



やっと県道 70 号線へ到達しました。

70 号線への出口付近は、北側なので雪が
多量に残っています。出口にはゲートがあり
今でも作業用道路として使われているようです。
旧ヤビツ道は当時、もっと貧弱で歩きにくかった
ように思われます。

→写真 旧ヤビツ道 県道 70 号線への出口



県道 70 号線の東側は急な崖になっています。旧ヤビツ道のこの先は、どのような経路になっ
ているのか興味があります。70 号線を 10 分ほど歩き、現ヤビツ峠へ到着しました。

写真等は丹沢自然学校の奥津 岳様のヤマレコホームページを使用させて頂きました。
感謝いたします。ありがとうございました。

自然発見クラブ「野鳥の羽根標本をつくる」の開催 & 「野生動物救護展」への参加

野生動物救護の会

神奈川県自然環境保全センターからの依頼で、令和8年8月22日(土)に自然発見クラブの講座「野鳥の羽根標本をつくる」を開講しました。今年度の参加者は、23名でした。

年々、参加人数が増えてきて、事前の準備もたいへんです。講座用に用意しておく野鳥の羽根も、参加者が増えてきたので鳥の種を統一することができませんでした（鳥の死体が足りないのは、良いことです）。今年は、ムクドリ、スズメ、ツバメ、コゲラ、アオジの羽根を準備しました。このラインナップですと、参加者が到着順に自由に鳥の種類を選んでゆくと、後から到着した方達に不公平感をもたれる気がしたので、くじ引きで鳥の種類を決めてもらいました。

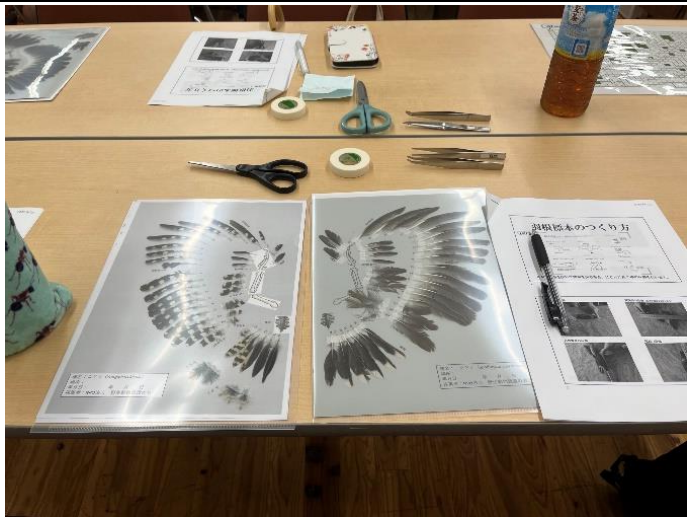
トラブルがないように準備したつもりでしたが、いざ始まってみるとまた、ピンセットやハサミが足りないとか、羽根を貼り付ける専用の台紙が足りないとか、「やっぱり僕はコゲラが良かった」、と苦情を申し立ててくる少年がいるなど、いろいろとありましたが、皆さん無事に羽根標本を完成させることができました。



神奈川県自然環境保全センターでは、令和8年8月16日～8月30日まで、傷ついた野生鳥獣の救護の取り組みを紹介する「野生動物救護展」を開催していて、野生動物救護の会も展示スペースをいただけたので、日頃の活動内容を紹介する展示を行いました。展示を見に来られた方達に、野鳥の羽根しおりや野生動物の絵や写真で作る缶バッジ作りを体験してもらいながら、救護の現場のお話などもさせていただきました。

羽根標本教室や野生動物救護展のお手伝いをして下さったボランティアの方達、自然発見クラブに参加して下さった皆さん、野生動物救護展を見に来てくださった人たち、大勢の人たちと野生動物について一緒にお話できた、とても楽しい有意義なイベントでした。次回もたくさんの方たちと野生動物についてお話ができるイベントになれば良いなと思っています。



自然発見クラブ「野鳥の羽根標本をつくる」1	自然発見クラブ「野鳥の羽根標本をつくる」2
	
自然発見クラブ「野鳥の羽根標本をつくる」3	野生動物救護展 1

西丹沢でシャワークライミング！

NPO 法人丹沢自然学校

私たち丹沢自然学校では以前から西丹沢ビジターセンターと畦ヶ丸との間にある西沢を舞台にシャワークライミングを行っています。丹沢自然学校が行うシャワークライミングは、普段は登山されない方を対象に簡単な沢登りと水浴びの要素を組み合わせ、小学校高学年から大人まで楽しめるイベントです。

実施場所の西沢は神奈川県の水源地にあるダムの一つの三保ダムが形成する丹沢湖の上流域にあり、その水の源となる湧き水も何ヶ所もあり、神奈川県の水源地を体感していただけるのに最適な場所の一つとして選んでいます。

ここからは写真に従ってご説明いたします。



西沢の砂防えん堤

土砂災害防止や軽減のために設置されているえん堤では滝のようになっています。ここで思いっきり水を浴びていただき、全身で水を体感していただきます。暑い日でも沢の水の水温は比較的低く、はじめは冷たくて気持ちよく、子供たちは繰り返し水を浴びに行きますがだんだん体が冷えていきます。

私たちスタッフは、参加者の方々が暑い日でも熱中症だけでなく低体温にならないように休憩場所で日光を浴びて体を温めるなどして体温管理に気をつけています。

また、西沢を歩きながら生き物の観察も行います。



西沢で見つけた
ミヤマカワトンボ
(写真左) と
カジカガエル (写真
右)

生き物相手ですので必ず見られるというわけではありませんが、スタッフは下見やこれまでの経験で、おおよそ居そうな場所を把握しておき、見つけた場所で説明を行い、名前を伝えるだけでなく、その生態や生き物によってはきれいな水でないと棲めない生き物があることをお話しし、水源地の環境の保全の大切さは必ずしも私たち人間の飲む水の水質を保つためだけではなく、そこにある生態系の多様性を保つ上でも大切なことであるということを伝えています。



西丹沢・西沢にある下棚

シャワークライミングの折り返し地点となる下棚(しもんたな)の滝です。この下流にある秘密の湧き水スポットで、こんこんと湧き出ている湧き水に実際に触っていただき、冷たさを体験していただき、さらにスタッフが用意した簡易浄水器を通した水を飲んでいただき、水の美味しさも体感していただいています。下棚の滝は風化しやすい花こう岩の一種トータル岩でできていて、滝の近くでは崩落して落ちている岩石などがあり、危険な場所に近づかないように注意喚起し、スタッフが落石などを監視しながら滝をご覧ください。はじめてご覧いただいた方は、落差が約40メートルもある滝の壮大さに驚かれ、また、その美しさに感激されることもあります。

下棚の後は下山しますが、下山は安全のため沢ではなく登山道を下り、起点となる西丹沢ビジターセンターまで戻ります。

なお、このシャワークライミングは川に棲む生き物への影響をなるべく抑えるため、参加者数は10名様までとしています。

昨年から神奈川県立西丹沢ビジターセンター様との共催という形をとらせていただきまして、広告・宣伝は西丹沢ビジターセンター様にお任せしています。そのおかげもあり、ありがたいことに、今年は3回の予定が早い段階で全て満員となりました。

残念なことに、そのうち2回は天候不順で、雨天や雷雨などが予想されたために安全第一で中止することになりましたが、来年以降も安全に配慮しながら、同じような取り組みを続け、水源地の環境保全の大切を伝える活動を続けていきたいと考えております。

最後に、ご参加いただいたお客様、神奈川県立西丹沢ビジターセンター様、公益財団法人神奈川県公園協会様にお礼を申し上げ、筆を置かせていただきます。

令和8年度丹沢大山ボランティアネットワーク総会

令和8年度総会は、自然環境保全センターで4月11日（土）に開催されました。

世話人会代表が小林昭五氏（NP0 法人丹沢自然学校）から山口寿則氏（NP0 法人伊勢原森林里山研究会）に交代し、最初の総会となりましたが、すべての議案について、出席した11団体の過半数の賛成により、無事承認されました。皆様のご協力に感謝いたします。

- ・ 議案1： 令和7年度事業報告・決算報告
- ・ 議案2： 令和8年度事業計画・予算（案）
- ・ 議案3： 世話人の改選及び会則の改定（案）

山口 寿則 新代表の他、副代表、会計、監事等について承認

【ご意見等】

- ・ ボラネットは発足して20年以上経過する中で、会員が高齢化している団体も目立ってきた。一方で、自然環境保全に係る課題がなくなったわけではない。今後もネットワークとして連携を取り、SNSの新たなツールの活用等も検討しながら、自然環境のためにできることをやっていく必要がある。
- ・ 各団体ではそれぞれ魅力的な活動をしており、その中には特定の分野に専門的な知識や技能を持った方もいる。ボラネットでは、各団体のイベント情報等を共有していくほか、こうした人材等に関する情報も発信・共有していけるとよい。

令和8年度水質調査の報告

「丹沢大山水質調査」は、丹沢大山総合調査の一環として開始され、その後は、丹沢大山ボランティアネットワークが引き継ぎ、現在、「丹沢の緑を育む集い実行委員会」との共催として事業を継続しています。調査場所は、丹沢を訪れる人が比較的に利用する可能性がある水場22か所を選んでいますが、そのうち6か所は今年度、断水・水道装置故障等により採水できず実施していません。

今年度も、丹沢自然保護協会、伊勢原森林里山研究会、野生動物救護の会、四十八瀬川自然村、丹沢自然学校、神奈川県勤労者山岳連盟の6団体にご協力いただきました。各団体の皆様、お忙しい中、調査にご協力いただき、ありがとうございました。

調査の結果、一般細菌は2か所（堂平沢、大山弘法の水場）から、大腸菌は3か所（二俣の水場、大倉高原山の家水場、用木沢出合）から検出されました。一般細菌や大腸菌が検出された水場はもちろん飲用に適しませんが、一般細菌や大腸菌が検出されなかった水場についても、必ず煮沸等を行ってから利用してください。

【令和8年度水質調査結果】 <https://www.pref.kanagawa.jp/documents/5147/r8suishitu.pdf>

丹沢ボラネット瓦版2026年10月号（通巻126号）10月15日発行
丹沢 大山ボランティアネットワーク世話人会代表 山口 寿則